

くすり一口メモ

新規末梢性神経障害性疼痛治療剤について

神経障害性疼痛は、体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛と定義されており、末梢性神経障害性疼痛と中枢性神経障害性疼痛に分類されます。末梢性神経障害性疼痛には、糖尿病性末梢神経障害性疼痛、帯状疱疹後神経痛やその他神経根障害等の多くの疾患が含まれます。

2019年1月に新規の末梢性神経障害性疼痛治療薬であるミロガバリンベシル酸塩錠（タリージェ[®]錠）が承認されました。ミロガバリンは電位依存性カルシウムチャネルの α_2 サブユニットに強力かつ特異的に結合するリガンドであり、特に神経障害性疼痛において重要な役割を担う α_2-1 サブユニットに対して持続的に結合します。 α_2 リガンドはカルシウムイオンの流入を抑制することで興奮性神経伝達物質の過剰放出を抑制し、鎮痛作用を発揮すると考えられています。副作用として傾眠、浮動性めまい、体重増加などがあります。めまい、傾眠、意識消失がおこることがあるため、服用患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意しなければいけません。また、体重増加を来すことがあるため肥満に注意し、肥満の徴候があらわれた場合は食事療法、運動療法などの適切な対応をとる必要があります。

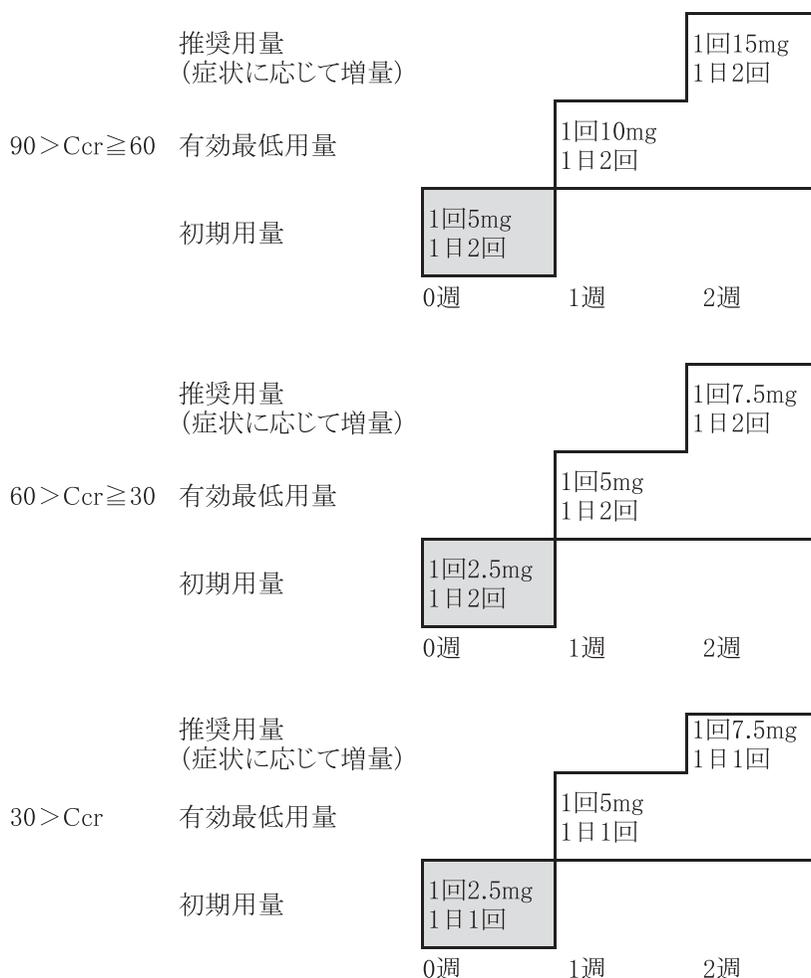
プレガバリン（リリカ[®]）はミロガバリンと同じ作用機序を持つ薬剤ですが、適応に違いがあります。今回はミロガバリンとプレガバリンの比較を行いましたのでご参照ください。

表1 ミロガバリンとプレガバリンの比較

一般名	ミロガバリン	プレガバリン
商品名	タリージェ [®]	リリカ [®]
規格	2.5mg, 5mg, 10mg, 15mg	25mg, 75mg, 150mg
剤形	錠	カプセル, OD錠
適応	末梢性神経障害性疼痛	神経障害性疼痛, 線維筋痛症に伴う疼痛
薬価	2.5mg : 79.4円 5mg : 109.7円 10mg : 151.5円 15mg : 182.9円	25mg : 66.0円 75mg : 109.9円 150mg : 151.3円
用法・用量 (腎機能が正常な場合)	1日2回 初期量 : 10mg/日 推奨維持量 : 30mg/日	1日2回 初期量 : 150mg/日 維持量 : 300mg/日 最高用量 : 600mg/日 (神経障害性疼痛の場合)
副作用 (帯状疱疹後神経痛に対する臨床試験時)	傾眠 (19.9%) 浮動性めまい (11.8%) 体重増加 (6.7%)	浮動性めまい (23.4%) 傾眠 (15.9%) 浮腫 (10.7%)

ミロガバリンとプレガバリンは、腎機能低下患者に投与するとarea under the blood concentration time curve (AUC) の増加がみられるため、クレアチニンクリアランス値 (Ccr) に基づいた用法・用量が設定されています。今回はミロガバリンの腎機能低下患者に対する用法・用量についてまとめました。初期用量を1週間以上服用後に有効用量へ増量し、その後1週間以上服用後推奨用量へ増量することができます。プレガバリンについては添付文書をご参照ください。

表2 腎機能低下患者に対するミロガバリンの投与量



参考文献：各社添付文書
製品情報概要

(鹿児島市医師会病院薬剤部 新上香奈子)